タモトユリ

【所　在　地】鹿児島郡十島村口之島
【種　　別】県指定天然記念物
【指定年月日】昭和 28 年９月７日

タモトユリはユリ科の多年草で，十島村口之島の西南海岸の断崖絶壁に希に自生する固有種である。草丈は 60 ～ 70cm，濃緑色の葉には短い柄があり，楕円形または卵状楕円形で光沢がある。６月下旬から７月頃に，テッポウユリに似た純白で香気の高い，長さ 14cm ほどの花を４～５個上向きに咲かせる。

タモトユリの名は，自生地が断崖絶壁で，たとえ手に入れても袂に入れないと持ち帰れないから名づけられたという説と，自生地が「袂ヶ浦」（地名）に近いので名づけられたという説がある。

このユリは上品な香気があるので「香ユリ」ともよばれ，乱獲がたたって絶滅が危惧されたが，近年，地元の人々の手によって保護増殖活動が行われており，その成果が期待される。